

令和元年度（第63回）
岩手県教育研究発表会発表資料

小学校外国語教育分科会

主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成
～ 新学習指導要領に基づく外国語活動・外国語における授業づくりを通して ～

令和2年2月13日
盛岡市教育委員会
盛岡市立厨川小学校
伊東 茂 吉田 貴子 高橋 由美

目 次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目標	2
IV	研究の内容と方法	2
V	研究の計画	2
VI	研究の実際	3
VII	授業研究（公開授業）	8
	＜外国語活動＞	
	3年2組 授業者 菊池 紗江	8
	3年1組 授業者 高橋 由美	10
	4年1組 授業者 大野 里香	12
	4年2組 授業者 伊藤 汐里	14
	＜外国語＞	
	5年3組 授業者 伊東 茂	16
	5年2組 授業者 田口 佳奈	18
	5年1組 授業者 葛西 浩美	20
	6年2組 授業者 佐藤 大樹	22
	6年1組 授業者 吉田 貴子	24
VIII	研究のまとめ	26
IX	引用・参考文献	28

I 研究主題

主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成
～新学習指導要領に基づく外国語活動・外国語における授業づくりを通して～

II 主題設定の理由

1 新学習指導要領から

平成28年12月の中央教育審議会答申では、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善の推進が求められていることとしている。今回の学習指導要領の改訂では、「生きる力」を子どもたちが育むために、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び理解」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養（主体的に学習に取り組む態度）の3つの柱で再整理している。

これらを踏まえ、小学校の中学年から外国活動を導入し、「聞くこと」「話すこと」を中心とした言語活動を通して外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に文字を「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することとしている。また、外国語によるコミュニケーションを体験させながら見方・考え方を働かせ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の言語活動を通して、コミュニケーションの素地・基礎となる資質・能力を育成することとしている。これらのことから、本校では英語でのコミュニケーションに視点を当て、外国語活動・外国語の授業づくりを通して、主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成を目指し、本研究を進めることとした。

2 児童の実態から

本校児童は、明るく落ち着いた雰囲気でも生活し、どの教科においても意欲的に学習に取り組んでいる。特に、外国語活動・外国語が好きな児童が多く、語彙や表現に慣れ親しむ場面では、楽しんで活動している。また、児童と教師の関わりだけでなく、児童同士でのコミュニケーション活動も意欲的に行うことができるようになってきている。しかし、語彙に慣れ親しんできてはいるものの、学習した表現を用いて、進んで友達と伝え合う力は十分とは言えない。そこで、習得した「知識及び技能」を外国語で主体的に表現するために、コミュニケーション活動を意図的に取り入れた授業づくりを進めていく必要があると考える。

本校の学校教育目標は、「強いからだ」「豊かな心」「正しい知恵」である。「正しい知恵」にかかわって目指す子どもの姿は、「進んで学習に取り組み、課題を追究していく子ども」「正しい思考力・判断力・豊かな表現力を身に付けた子ども」である。研究主題の「主体的にコミュニケーションを図る子ども」の育成は、「進んで学習に取り組み、課題を追究していく子ども」「正しい思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども」の育成につながり、本校の教育目標の具現化を図ることができると考える。

3 昨年度までの成果と課題から

研究1年目の平成29年度は、2学期から中学年10時間、高学年51時間の授業を行った。どの学年でも、アクティビティの工夫など、授業づくりに力を入れたことで、

子どもたちの外国語への興味・関心が高まり、外国語に慣れ親しむ姿や、友達とのコミュニケーションを楽しむ姿が見られた。しかし、単元の最終活動や単元目標が明確ではなかったため、児童が最終活動に向かって主体的に活動に取り組む姿はあまり多くは見られなかった。また、指導過程が確立していなかったため、同一学年でも授業の進め方が異なることがあった。

そこで、2年目の平成30年度は、目標を明確にした単元指導計画を作成した。また、一単位時間の指導過程を作成した。単元の導入時に、単元の最終活動と単元目標を提示したことで、児童に明確な目標をもたせることができた。さらに、一単位時間の指導過程を作成したことで、足並みをそろえて授業を行えるようになった。しかし一方では、主体的にコミュニケーションを図る態度が十分に育っているとは言い難い様子が見られた。そこで、活動を振り返り、次の活動に生かすという「主体性を育む振り返り」が必要と考えた。

3年目となる令和元年度は、児童が主体的にコミュニケーションを図るために、「必然性のある場の設定の工夫」「連続性・発展性のある活動の工夫」「主体性を育む振り返り」を取り入れて実践した。「主体性を育む振り返り」では、形成的な評価場面としてシェアリングタイムを意図的に設定し、気づきや振り返りを共有できるようにした。また児童が達成感を味わい、自分自身の成長を実感できるようにする振り返りシート（自己評価シート）の作成と活用を試みた。

Ⅲ 研究の目標

外国語活動・外国語において、新学習指導要領に基づいた授業づくりを通して、主体

的にコミュニケーションを図る子どもの育成の在り方を実践的に明らかにし、授業改善に役立てる。

Ⅳ 研究の内容と方法

1 研究内容

- (1) 単元指導計画の作成
- (2) 一単位時間の指導過程の作成
- (3) 主体的にコミュニケーションを図る子どもを育成する授業

2 研究方法

- (1) 指導に関する理論研究、教材研究
- (2) 先進校視察、研修会開催
- (3) 研究授業による分析、考察

Ⅴ 研究の計画

1 1年次(平成29年度)

- (1) 授業実践（2学期より）
- (2) 授業研究会 中学年2回、高学年2回

2 2年次(平成30年度)

- (1) 単元指導計画の作成
- (2) 1単位時間の指導過程の検討
- (3) 自己評価方法の検討
- (4) 拡大校内研究会の実施
- (5) 授業指導力向上研修
- (6) 英語運用能力向上研修

3 3年次(令和元年度)

- (1) コミュニケーション活動の場の設定
ア 「聞く」「話す」「やり取り」の必然性のある場
- (2) 活動の工夫
ア 変化のある繰り返し
イ ステップアップする活動
- (3) 主体性を育む振り返り
ア シェアリングタイムの活用
イ 「振り返りシート」による自己評価

VI 研究の実際

1 目標を明確にし、連続性・発展性のある単元指導計画

本校では、単元の1時間目に単元目標と最終活動を提示し、ゴールに向かって必要な表現に慣れ親しませるように単元を構成している。目的意識が高まることで児童の学習への意欲やコミュニケーションへの主体性が高まると考えたからである。

作成する上で留意した点は以下の5点である。

- 単元目標を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3観点で表したこと。
- 外国語ではCAN-DOリストを付記したこと。
- 単元で使用する主な語句や基本文などの言語材料を明記したこと。
- 児童の学習履歴に配慮し、取り扱う語彙や表現を精選・吟味したこと。
- 指導と評価の一体化を図るために、単位時間ごとの評価の観点と方法を明記したこと。

段階	学習活動	具体的な活動例
出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元で行う最終活動と単元全体の目標をつかむ。 ・最終活動に向けてどのような学習が必要かを見通しをもつ。 ・新しい語句や表現に出会う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">単元目標と最終活動の提示</p> <p>○単元目標と最終活動の提示 ○「何のために」「何を」を学習するか</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「面白そう」「やってみよう」など、児童の興味・関心を高める。最終活動での姿をイメージさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">気づきを促す活動</p> <p>○ Small Talk ○ Let's Watch & Think ○ Let's Listen</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動画、写真、音声から会話や話の大体の内容を推測したり、確かめたりする活動を通して、新しい語句の意味や表現の使い方を理解させる。</p> </div>
慣れる	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい語句や表現に慣れる活動を行う。 ・やり取りに慣れる活動を行う。 ・より分かりやすく伝えたり、より正確に理解できるように聞いたりする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">語句・表現に慣れ親しませる活動</p> <p>○ Let's Sing ○ Let's Chant ○ Let's Watch & Think ○ Let's Listen ● Let's Read & Write</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>歌、チャンツ、ゲームなどを通して、新しい語句や表現を繰り返して使うようにする。変化を取り入れ、ステップアップを図る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">やり取り・発表に慣れ親しませる活動</p> </div>
伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識をもち、最終のコミュニケーション活動を行う。 ・単元全体の振り返り 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○ Let's Listen ○ Let's Watch & Think ○ Let's Play ● Let's Talk ○ Activity ◇ シェアリングタイム</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>伝え合う必然性のある活動を設定する。またシェアリングの中で、難しい表現に慣れ親しんだり、分かったことや気付いたことを共有したりし、次の活動につなげる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">最終活動（やり取り・発表）</p> <p>○ Activity ◇ シェアリングタイム</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最終活動では児童に達成感を味わわせる。単元全体を振り返り、成長した点や課題をつかませる。</p> </div> <p style="text-align: right;">※ ●は外国語のみの活動</p>

2 連続性・発展性のある一単位時間の指導過程

一単位時間の指導過程を確立することで、全教員が授業の進め方について共通理解し、足並みを揃えて授業を行うことができる。また、外国語活動と外国語の授業の共通点や相違点を明らかにすることができる。

外国語活動と外国語に共通する基本的な指導過程や相違する指導過程は以下のとおりである。

	学習活動	指導上の留意点
導 入	【Warm Up】 ◎ Greetings ・ 始まりの挨拶する。 ○ Review ・ 既習事項の復習をする。 ○ Small Talk ・ 課題に関わる話などを聞く。 ◎ Today's Goal ・ 本時の課題を確認する。	・ 笑顔で挨拶を交わし、楽しい雰囲気をつくる。 ・ 本時で扱う既習表現を繰り返し聞いたり話したりすることで定着を図り、Activity で使う準備をする。 ・ 既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る。対話を続けるための基本的な表現の定着を図る。 ・ 本時の課題をつかませる。これまでの活動や今後の活動とのつながり（連続性）を確認する。
展 開	【Main Activity】 ○ Let's Watch & Think ・ デジタル教材を視聴して考える。 ○ Let's Listen ・ 会話などを聞く。 ○ Let's Chant ・ 語句・基本文などをリズムにのって繰り返して発音する。 ○ Let's Sing ・ 語句・基本文などをメロディに合わせて歌う。 ○ Let's Play ・ 遊びながら語句や基本文などの表現に親しむ。 ● Let's Talk ・ 児童同士で慣れ親しんだ表現を使って会話する。 ● Let's Read & Write ・ アルファベットや短い表現を読みながら書き写す。 ◎ Activity ・ やり取りや発表などの中心活動を行う。 ○ シェアリングタイム ・ 感想を交流する。	・ デジタル教材を視聴して、言葉や文化の共通点や相違点に目を向けさせ、気づきを促す。 ・ 聞き取った表現に焦点を当て、そこから全体の内容を推測させる。 ・ 外国語のリズムやイントネーションに十分に慣れ親しませる。 ・ 英語の歌に合わせて体を動かしたり、実際に歌ったりして慣れ親しませる。 ・ ゲームを通して語句や基本文などの表現に慣れ親しむようにする。 (ポインティングゲーム・キーワードゲームなど) ・ 思考・判断を必要とする活動を取り入れる。 (インタビューゲーム・仲間探しゲームなど) ・ 既習表現を使ってペアやグループなどで話し合わせる。 ・ 十分に音声に慣れ親しんだ表現について4線を意識して、書き写すようにする。 ・ 慣れ親しんだ表現を使って、思いや考えを伝え合う活動を行うようにする。相手意識をもって伝えようとする態度を育てる。 ・ 児童にとって難しかった表現を確認したり、分かったことや気付いたことを共有させる。
終 末	【Reflection】 ◎ Reflection ・ 本時の学習の振り返りをする。 ・ 次時の学習内容をつかむ。 ◎ Greetings ・ 終わりの挨拶をする。	・ 本時の課題に沿って振り返るようにする。児童の活動のよさを賞賛し、達成感を味わわせる。 ・ 目を合わせて笑顔で挨拶するなど、最後までコミュニケーションを大切にしようとする態度を育てる。

変化のある繰り返し・ステップアップしていく活動

◎は基本活動／○は本時の目標に基づき、選択して活動／●は外国語のみの活動

3 「主体的にコミュニケーションを図る子ども」を育成する授業

(1) 必然性のある場の設定の工夫

ア 「聞く」必然性のある場

< 3 Hints Quiz (6年) >

「人物紹介」では、「人物当て3ヒントクイズ」を出し合う活動を取り入れた。学級の友達についてのクイズだったので、児童は興味・関心を高め、クイズに答えようと真剣に耳を傾け、3つのヒントを聞いていた。

イ 「話す」必然性のある場

< Happy New Year Game (5年) >

月の言い方に慣れ親しませるために、グループごとに互いに指名し合いながら1月から1つずつ12月まで言う活動を取り入れた。12月まで連続して言ったらゲーム終了となるので、児童は夢中になって月を言っていた。

ウ 「やり取り」の必然性のある場

< 友達さがし (3年) >

「数であそぼう」では、自分と同じ数だけりんごに色を塗った友達を探す活動を行った。同じ数だけ色を塗った友達を探すために How many apples? / I have 7 apples. のようなやり取りの表現を自然に繰り返して使っていた。

(2) 変化のある繰り返しやステップアップしていく活動の工夫

ア 変化のある繰り返し

< 曜日リレーゲーム (4年) >

曜日の言い方に慣れさせるためにペアで一週間の曜日を順番に言うリレーを行った。1回目は Sunday から Sunday まで、2回目は Thursday から Thursday まで言うことにした。条件を変えたことで児童は意欲的に活動していた。

イ ステップアップしていく活動

< 夏休みの思い出を伝え合う (6年) >

夏休みの思い出を伝え合う活動では、1回目は「行った場所」、2回目は「行った場所」と「したこと」、3回目は「行った場所」「したこと」「感想」を伝え合った。段階的に内容を増やすことによって児童は意欲を高め、夏休みの思い出を伝え合っていた。

6年 Unit 3 「人物紹介」



5年 Unit 3 「行事・誕生日」



3年 Unit 3 「数であそぼう」



4年 Unit 3 「好きな曜日は何かな？」



6年 Unit 5 「夏休みの思い出」



(3) 主体性を育む振り返り

ア 「シェアリングタイム」の設定

<好きな曜日を伝え合う（4年）>

前半の活動を行った後のシェアリングタイムでは、まず、教師が児童のがんばりを情感を含めて讃えた。次に、児童に会話表現で難しいところはなかったか尋ねた。数名の児童が Do you like ~? の表現が難しかったと答えたので、その表現の確認をした。児童は言えるようになりたいという思いを高めて復習していた。

後半の活動では、児童が自信をもって好きな曜日を尋ねたり答えたりしていた。

4年 Unit 3 「好きな曜日は何かな？」



<夢の時間割を伝え合う（5年）>

1回目の活動後のシェアリングタイムでは、What subject do you have? の表現をもっと学習したいという感想が出た。その後、その表現をフィンガードリルを使って確認した。

その後の2回目の活動では、児童が自信をもって生き生きと夢の時間割を伝え合っていた。活動後のシェアリングタイムでは、「A君が家庭科が好きなことを知って驚きました。」など、友達の意外な一面を紹介し合っていた。

5年 Unit 3 「学校生活・教科・職業」



「シェアリングタイム」とは

1 ねらい

主に Activity の中で行う、広い意味での「形成的な評価の場」である。ペア、グループ、全体の場合などで活動の振り返りをし、次の活動に生かすための時間である。

2 内容

短時間で、難しかったこと、やってみたいこと、友達の活動のよかったこと、やってみたいこと、できたこと、分かったことなどについて、次の活動に生かすために共有する。

3 振り返りの例

- ・ Activity をやってみて難しかった表現について確かめる。
- ・ よい活動をしていた児童を紹介し、よい点について児童に気付かせる。
- ・ やり取りした内容について、気付いたことや分かったことを話し合わせる。
- ・ 相手によりよく伝えるためにはどんな工夫が有効か話し合わせる。
- ・ よりよい活動にするために児童が相互にアドバイスを伝え合うようにする。
- ・ 2回行う際は、2回目のシェアリングタイムで活動の変容を児童からの声で確認する。

イ 達成感を味わい、主体性を高める「振り返りシート」の活用

4年 Unit 3 「好きな曜日は何かな？」



① 単元目標の明確化

振り返りシートに、単元目標を書かせることで、ゴールの見通しをもたせ、「達成しよう」という目的意識を高めた。

② 3つのキーワードでの感想

毎時間、学習課題に対する自己評価を行うことで、達成感を味わわせた。「会話の楽しさ」「新しい気付き」「友達のよかったこと」などについて感想を書かせ、学習を楽しみ、友達のよさを認め合う心を育んだ。

単元のゴール 友だちの好きな曜日は何かな			
日付	Today's goal	◎◎	【感想】 会話の楽しさ、新しい気付き、友達のよかったこと、等々
6/21	世界の子どもの生活をくらべてみよう。	○	ズラソルはマツコチの国でアツシはハリ林の日はぐついでました。
6/22	一週間の予定を伝え合おう。	◎	昨日の日にやることを英語にするためにお出かけからジョギングができました。
6/23	好きな曜日のことを友だちと読んで話そう。	◎	友だちも休日が好きな人が多かったです。たけれど平日が好きな人も多かった。友だちの話を聞いて嬉しかったです。

6年 Unit 3 「人物紹介」

6年 Unit 2 Welcome to Japan		日本の文化 8時間	
*日本の紹介の文をよんで、書いてみよう！ *日本の行事・食べ物・遊びなどを紹介しよう！			
今日の We Can!	今日の We Can!	1. 好きな食べ物(好きなこと)、友達・次組まねたいこと	今日は、好きな食べ物や行事について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
日本の文化や行事について発表しよう。	I like takoyaki.	2. 好きな季節	今日は、好きな季節の行事について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
行事が行われている季節を言おう。	spring spring	3. 好きな日	今日は、好きな日の行事について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
食べ物とその味覚について発表しよう。	delicious	4. 好きな食べ物	今日は、好きな食べ物の味について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
日本の食べ物について発表しよう。	I like sushi.	5. 好きな行事	今日は、好きな行事について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
好きな日について発表しよう。	We have hanami.	6. 好きな季節	今日は、好きな季節について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。
好きな日本の食べ物について発表しよう。	eating strawberry	7. 好きな食べ物	今日は、好きな食べ物について、友達の話を聞いて、自分も好きになったこと、次は、今日知ったことを、友だちと話をしよう。



① 自己肯定感を高める自己評価

6年生では、4つの観点「主体的に学習に取り組む態度」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「書くこと」から毎時間1～2項目について以下の3段階で自己評価を行った。

- ：自分の力でできた
- ：自分の力で何とかできた
- ：先生や友達の力をかりてできた

この評価を通して児童は「できた」という成就感・満足感をもつようになった。

② 学習の足跡を大切にする「書き写し」

学習して十分に音声に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、授業の終盤で書き写す活動を取り入れた。振り返りシートに毎時間書いていくことで、単元全体を通して学んだことが明らかになる。児童にとっては、シートに書いた語句や表現を見ることで、学習の成果や自分がまだ十分には身に付けていない語句や表現を確認することができた。

VII 授業研究（公開授業）

第3学年 外国語活動学習指導案

指導者 3年2組 菊池 紗江

1 単元名 What do you like? 何が好き? (Let's try! ① Unit 5)

2 本時の指導 (3/4時間)

(1) 目標

何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。

【思考力, 判断力, 表現力等】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 5分	【Warm Up】 1 Greetings 2 Let's Chant 「What do you like?» 3 Today's goal 好きなものをたずねたり答えたりしよう。	・笑顔で明るく挨拶をする。	○後ろの人に元気な挨拶をつなげ、明るい雰囲気をつくる。 ○前時までは好きな色について尋ねたり答えたりしたことを確認する。
展開 35分	【Main Activity】 4 Let's Play キーワードゲーム ・児童は, What (color / food / fruit / sport) do you like? と先生に尋ねる。キーワードが聞こえたら消しゴムをとる。 5 Activity ①What~?の表現を使って, 隣の友達と好きな果物を尋ね合う。 ・シェアリングタイム ②What の表現を使って, 学級の友達と好きなスポーツを尋ね合い, 同じスポーツを選んだ友達を探す。 ・同じスポーツを選んだ友達同士でグループを作る。みんなで声を合わせて What sport do you like? と各グループに聞く。聞かれたグループは I like~. と, 声を合わせて選んだスポーツを答える。	・今までの単元で出てきた名詞(色・食べ物・スポーツ)と, I like ~. の表現を確認する。 ・表現に十分に慣れ親しんでいないものがあつたら, 慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・友達について新たな発見や気づきを尋ね, 全体で共有する。 ・活動の最後に, 選んだスポーツごとにグループを作り, 学級で1番好きな人が多いスポーツを見つけることを伝える。	○日本語と英語の音声の違いに気付かせる。 ○消しゴムを取った後も I like ~. の表現を復唱させる。 ○「Me, too.」や「I see.」など, 友達の受け答えに対して反応させる。 ○よい聞き方や反応をしていた児童を取り上げ, 全体で共有する。 ○「Me, too.」を言い合った友達同士がつながることで, 選んだスポーツごとにグループを作ることができるように声をかける。 ◎何が好きか尋ねたり答えたりして, 伝え合っている。(行動観察, 振り返りシート) ◇尋ね方や答え方で戸惑う児童に寄り添い, 一緒に質問したり答えたりする。
終末 5分	【Reflection】 7 Reflection ・振り返りシートに記入する。 ・振り返りを発表する。 8 Greetings	・会話の楽しさや友達への新たな気づき, 次時にできるようにになりたいことなどを発表させる。 ・終わりの挨拶をする。	○これまでの学習で分かった, 「学級のみんなが1番好きなもの」について確認し, 次時につなげる。

3年2組 授業の考察

1 研究との関わり

本時は、単元のゴールである「学級の好きなものランキングを作る」活動に向けて、What ~ do you like?の表現に慣れ親しむ時間である。「友達と好きなものを尋ね合う」場面では、自分と同じものを好きな友達のことを探すために、積極的に活動する姿を目指した。また、シェアリングタイムを通して、よりよいコミュニケーションを行うために大切にしたいポイントを考えさせ、全体で共有した。

2 授業の実際と考察

(1) 連続性・発展性のある一単位時間の指導過程 (VI研究の実際2)

導入のLet's Chantではリズムよく「What do you like?」を言うことができるようになった。チャンツで用いられた表現を会話でも用いることができるように、Let's playのキーワードゲームでも、教師が提示したテーマに合わせて「What ~ do you like?」と尋ねたり、「I like ~.」と答えたりして、何度も繰り返して表現を使った。また、Activityにおいても、「What fruit do you like?」とペアで尋ね合う活動を行うことで、最後の活動である、好きなスポーツを尋ね合う場面で、主体的に友達へ聞きに行くための意欲を高めた。

What~?の表現を使って、学級の友達と好きなスポーツを尋ね合う活動に向けて、チャンツで表現を確認し、教師と児童、隣の児童、学級全体の児童というように、やり取りを行う相手を広げていった。活動を変えながらも自然と何度も同じ表現を繰り返すことで、児童も自信をもち、最後の活動では様々な児童に対して、自ら尋ねに行く様子が見られた。



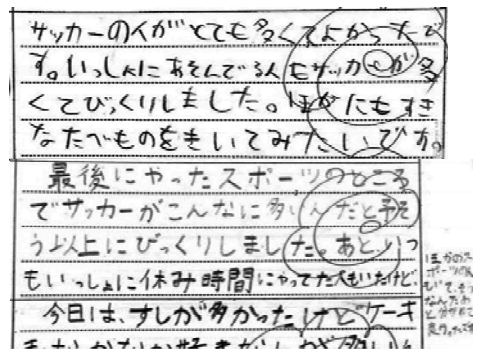
(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

授業の最初では、前時の振り返りを紹介し、友達への新しい気付きがあったり、自分と同じものが好きだという人を見つけたりすると嬉しいという気持ちを共有した。

シェアリングタイムでは、①友達と交流したことでどんな発見があったか、②友達の姿で良かったところ、の2つを全体で共有した。①では、「自分の周りにはストロベリーが好きな人が多くてびっくりした。」というように、児童は友達から聞き取った内容を理解し、感想を述べていた。②では、「はっきりと話してくれて聞きやすかった。」と述べ、交流の際に大切なポイントを、友達の良い姿を用いて全体で共有し、次の活動へとつなげていった。

終末のリフレクションでは、「サッカーが好きな人は多いと思っていたけど、自分のクラスの中にこんなにサッカーが好きな人がいると知ってびっくりした。」「自分の選んだバスケットを好きな人は少なかったけど、たくさんの友達に聞くことができてよかった。」というように、やり取りができた達成感を書いている児童が多かった。

これまでの振り返りシートを見ると、「Me, too. を言い合えると嬉しい。」と書いている児童が多かった。その思いをもとに教師が授業を組み立てていったことで、児童は、より主体的に学習に臨むことができたと考える。また、次時に何ができるようになりたいかを書いている児童も多数おり、単元のゴールを見通しながら意欲的に学習を進めていたと考える。



第3学年 外国語活動学習指導案

指導者 3年1組 高橋 由美

- 1 単元名 What do you like? 何が好き? (Let's try! ① Unit 5)
- 2 本時の指導 (4 / 4 時間)

(1) 目標

相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。

【学びに向かう力、人間性】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 5分	<p>【Warm Up】</p> <p>1 Greetings</p> <p>2 Let's Chant 「What do you like?」</p> <p>3 Today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">3年1組の好きな食べ物ランキングを作ろう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で明るく挨拶する。 ・児童に色・果物・食べ物からいずれかを選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアでも挨拶させる。 ○体を動かしながら行い、楽しい雰囲気にする。 ○めあてを確認させ、友達は何が好きか尋ねたり答えたりしようとする意欲を高める。
展開 35分	<p>【Main Activity】</p> <p>4 Let's Play 「チェンゲーム」</p> <p>5 Activity</p> <p>①好きな食べ物は何かインタビューを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>S1: Hello. S2: Hello. S1: What food do you like? S2: I like ~. S1: I see. (Me, too.) なぜ～が好きなのですか。 S2: ~だからです。 S1: Thank you. S2: Thank you. See you.</p> </div> <p>・シェアリングタイム</p> <p>②食べ物ランキングを予想する。(1～3位)</p> <p>③全員の好きな食べ物を聞いて、好きな食べ物ランキングをみんなで確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>・3年1組の好きな食べ物第1位は、○○です。 第2位は○○です。第3位は○○です。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームのルールを確認する。 ・尋ねる内容を、色・果物・食べ物などに変えて続ける。 ・自分の好きな食べ物を1つ選ばせ、シートに書かせる。 ・デモンストレーションをしてモデルを示す。 ・好きな理由も聞いて、メモすることも話す。 ・前半スタートの合図をする。 ・後半スタートの合図をする。 ・インタビューしたことをもとにランキングを予想させる。 ・一人一人に何が好きか聞いて数を確認する。 ・予想と結果を比べさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時と違うリーダーにしてゲームを行わせる。 ○言葉をはっきり言ってつなげていくようにさせる。 ○発音だけでなく、動きで表現することや友達への答えに反応するように促す。 ○メモは短く簡単に書かせる。 ◇尋ね方や答え方で戸惑う子には寄り添い、一緒に質問したり答えたりする。 ○相手の話をうなずいて聞いたり、友達への答えを繰り返して言ったりしている姿について称賛する。 ◎相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとしている。 (行動観察、振り返りシート)
終末 5分	<p>【Reflection】</p> <p>8 Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入する。 ・振り返りを発表する。 <p>9 Greetings</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の楽しさや新しい気付き、友達や自分がかんばったことを振り返らせ、全体で共有する。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点を示して振り返らせ、よかったところを共有する。

3年1組 授業の考察

1 研究との関わり

本時は、単元の最終活動である「学級の好きなものランキングを作る」ための活動を行った。What～do you like?の表現を用いて児童の好きな食べ物を尋ね合い、友達との交流を広げながら相手のことを知るうれしさや楽しさを味わわせるようにした。シェアリングタイムでは、相手意識をもって話す大切さを話し合い、コミュニケーションへの主体性につなげるようにし、終末では、お互いを知り合う楽しさを共有して、今後の活動への意欲につなげた。

2 授業の実際と考察

(1) 必然性のある場の設定の工夫 (VI研究の実際3 (1))

「伝える」段階では、好きなものランキングを作るために、友達に好きなものを尋ねたり答えたりする活動を行った。好きなものを尋ねるだけでなく、好きな理由も伝え合うことで、自分と相手と比較しながらコミュニケーションを楽しむ喜びや楽しさを味わわせたいと考えた。また、普段は交流の少ない友達と意図的に交流させることで、もっと友達について知りたいという気持ちを高めることにつなげたいと考えた。



相手を変えながら何度も表現が使われる場面をつくることで、自然と表現に慣れ親しませることができた。相手の言ったことに相槌を打ったり、リアクションしたりする姿が多く見られるようになった。また、既習を意図的に使おうとする児童から他の児童が学び、自分に取り入れる様子も見られた。

日本語で好きな理由も聞いてメモするようにさせたが、時間がかかってしまう児童もいたので、メモにこだわらなくてよいと声がけすることも必要だった。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

終末のリフレクションでは、友達に対する新しい気付きや活動で楽しかったことやがんばったことについて振り返らせた。

S1: みんなの好みを知れてよかったし、意外な理由があっ
ておもしろかったです。またやってみたいです。

S2: ○○さんが答えを繰り返してくれて、自分の理由も言
っていてすごかったです。

S3: うどんが好きな理由が、音がいいというのがおもしろ
かったです。ジェスチャーもがんばりました。

S4: 友達の意外なことが知れました。落ち着いてインタ
ビューすることができました。

S5: ゆっくり言ったり、アイコンタクトしたりしながらイ
ンタビューすることができました。次もがんばりたい
です。



好みや好きな理由の違いを聞き合うことで友達の意外な面を知り、もっと知りたいという気持ちを引き出すことができた。また、普段交流があまりない友達と、意図的に尋ね合わせるようにしたことで、新しく仲良くなれたと感じた児童や、自分から話しかけたり、相槌を打ったりすれば仲良くなれると実感した児童もいた。

第4学年 外国語活動学習指導案

指導者 4年1組 大野 里香

1 単元名 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう (Let's try!② Unit 5)

2 本時の指導 (3 / 4 時間)

(1) 目標

文房具などの学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 10分	【Warm Up】 1 Greetings 2 Let's Chant “Do you have a pen?” 3 Today's goal	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で明るく挨拶をする。 ・児童と一緒に歌う。 ・単元のゴールに向かうための本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○天気や曜日、時刻も尋ねる。 ○楽しい雰囲気でチャンツさせる。
友達のために、文房具セットをつくろう。			
展開 30分	【Main Activity】 4 Let's Play 「文房具ビンゴゲーム」 ・ビンゴになるように、お互いの持っている文房具を尋ねたり答えたりする。 5 Activity 「文房具セットをつくろう」 ・お店屋さんごっこの要領で、文房具を渡す側ともらう側に分かれ、欲しい文房具について尋ねたり答えたりしながら文房具セットの中身を集める。 ・集めた文房具をケースに並べて文房具セットを作り、出来上がったなら写真を撮る。 ・シェアリングタイム ・役割を交代し、文房具セットの中身を集める。	<ul style="list-style-type: none"> ・“Yes, I do. / No, I don't.” の後に，“I have~/ I don't have~”.の表現を加えて答えることをモデルで示して、ルールを理解させる。 ・初めは HRT と、次は隣の席の友達とやり取りさせる。 ・やり取りの仕方をデモンストレーションして、モデルを示す。 ・話すことの手掛かりにできるよう、話す内容を黒板に絵や図で表す。 ・相手がもらってうれしい文房具セットを作ることを確かめる。 ・友達のための文房具セットを写真に撮って残させる。 ・尋ね方や答え方に慣れ親しんでいないものがあつたら、慣れ親しませる活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文房具の言い方を確認する。 ○“Do you have~? “Yes, I do. / No, I don't.” “I have~/ I don't have~.の表現に慣れ親しませる。 ○本時までには、文房具セットを贈る相手を決め、文房具セットの中身を考えさせておく。 ◇尋ね方や答え方に戸惑う児童に寄り添い、一緒に会話する。また教え合いながら会話してよいことを伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ◎文房具などの学校で使う物を尋ねたり答えたりしている。(行動観察、相互評価、振り返りシート) </div>
終末 5分	【Reflection】 6 Reflection ・振り返りシートに記入する。 7 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とのやり取りで頑張ったことや気付いたことか、文房具セットを作った感想を発表させる。 ・活動のよかった点を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点をしばって振り返らせ、よかったところを全体で共有する。

4年1組 授業の考察

1 研究との関わり

次時に、単元の最終活動である「友達のために作った文房具セットを紹介する」ために、本時では、自分の欲しい文房具を集めて、友達のために文房具セットを作る活動をした。思い描いた文房具セットを作るためには、自分が欲しい文房具を確実に手に入れなければならない。そのために、「欲しい文房具の数や色を正しく伝えること」や「はっきりした声で話すこと」の大切さをシェアリングタイムで話し合い、意識してやり取りできるようにした。

2 授業の実際と考察

(1) 必然性のある場の設定の工夫 (VI研究の実際3 (1))

児童が楽しみにしていたお店屋さんごっこのやり取りの仕方をデモンストレーションする際
“Do you have a ruler?” “Yes, I do.” と、「文房具の名前」を伝えると買い物ができただけを示した。実際は、それだけでは買い物ができない。児童の欲しい文房具は色や数など多岐にわたっている。それをどのように伝えて買い物をするか、また、店側の児童は、相手にどのように聞いて文房具を渡すかを考えさせた。



児童は、既習の表現を駆使して、欲しい文房具の色や数を伝えようとしたり、店側の児童が聞き出そうとしたりしていた。分からないときは教え合いながらやり取りをしていたが、客側・店側双方が分からないときに日本語でやり取りしている様子が見られた。なるべく外国語でコミュニケーションさせるためにも、個々の店ではなく、座席をつけて隣同士でも教え合いながらやり取りができるとよかった。座席の配置という点では場の設定の工夫がもっと必要だった。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

お店屋さんごっこの活動の途中でシェアリングタイムを設けた。慣れ親しんでいない表現を確認したり、児童のやり取りで工夫していることを共有したりした。

T : 難しかったところはありましたか。

S 1 : 買い物するときに、何と伝えればいいか忘れてしまいました。

(→表現を確認し、全体で繰り返し慣れ親しませる。)

S 2 : glue stick とか、大きいのと小さいのがあったとき、どう言えばよいか迷いました。

T : 上手に聞いている人がいたよ。言ってみてください。

S 3 : Small or big?

T : Good job! そう言うといいんだね。他に、工夫したことはありませんか。

S 4 : ぼくがお店屋さんで、How many? って聞いたらお客さんが欲しい数を言ってくれました。

T : お店さんが聞いてくれると、買い物しやすいんだね。

その後の活動では、シェアリングタイムで共有した “How many?” や “What color?” と言って数や色を尋ね合う児童の姿が見られた。そして、終末の振り返りでも、“Do you have a yellow green magnet?” と尋ねた友達を紹介する児童もいた。やり取りの仕方を示すときに、児童のつまづきを想定して多くを提示するのではなく、最低限のやり取りのみを示し、あとは児童に考えさせる。そして、シェアリングタイムで、うまくいかなかったことを確認したり、うまくいったことを共有したりすることで、活動への意欲が高まり、主体的なコミュニケーションにつながっていくものと考えられる。

第4学年 外国語活動学習指導案

指導者 4年2組 伊藤 汐里

1 単元名 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう (Let's try!②Unit6)

2 本時の指導 (4 / 4 時間)

(1) 目標

相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 10分	【Warm Up】 1 Greetings 2 Let's Chant "Do you have a pen?" 3 Today's goal	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で挨拶をする。 ・速さを選択させる。 ・児童と一緒に歌う。 ・めあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○天気や曜日、時刻も尋ねる。 ◇絵カードを、チャンツに出る順に黒板に貼っておく。 ○単元の学習を振り返る。
文ぼう具セットをしようかいしよう。			
展開 30分	【Main Activity】 4 Let's play 「文ぼう具ビンゴゲーム」 ・ビンゴシートにある文房具を尋ね合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> S1 : Do you have a marker? S2 : Yes, I do. I have a marker. / No, I don't. </div> 5 Activity 「文ぼう具セットの紹介」 ・文房具セットの内容と、その理由を紹介する。 ・初めは1対1で、次は4人グループで紹介する。 ・最後に、文房具セットを贈る相手を含んだ4人グループで紹介し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> I have pencils. I have an eraser. 作文好きの友達なので、鉛筆を多く入れました。 This is for (Shiori.) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Yes, I do.の後に、I have~.の表現も加えて答えることを、モデルで示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介の仕方を確認しモデルを示す。 ・ 話す内容を、黒板に絵図で表す。 ・ 紹介の仕方で行っていることや、工夫していることを尋ね、シェアリングする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇文房具の言い方を確認する。 ○文房具の名前や、尋ね方や答え方が分からないときは、友達に聞くことを確かめる。 ○進んでコミュニケーションを取る姿や、I have~. と話そうとしている姿を褒め、話すことへの意欲を喚起する。 ○話すこと【発表】には慣れていないので、友達同士で教え合うように声をかける。 ◇話せない児童に寄り添い、話す内容を1文ずつ繰り返すようにさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎はっきりと話したり、相手の話をうなずきながら聞いたりして、伝え合おうとする。 (行動観察, 自己評価, 相互評価, 振り返りシート) </div>
終末 5分	【Reflection】 6 Reflection ・振り返りシートに記入する。 7 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介でがんばったことか、文房具セットを贈り合った感想を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点をしばって振り返らせ、よかったところを全体で共有する。 ○活動のよかった点を伝える。

4年2組 授業の考察

1 研究との関わり

本時は、単元の最終活動である「友達のために作った文房具セットの紹介」を行った。友達同士で話し方や話す内容をアドバイスし合ったり、紹介の仕方で困っていることや工夫していることを全体でシェアリングしたりすることで、児童が自己評価と相互評価を繰り返しながら、自分の伝えたいことを言語化し、その喜びを感じられるようにした。

2 授業の実際と考察

(1) 目標を明確にし、連続性・発展性のある単元指導計画（IV研究の実際（1））

第1時で最終活動を示し、児童に活動の見通しと関心をもたせた。児童は、バラエティある実物の文房具の中から、日ごろ共に過ごす隣の席の友達に贈る文房具セットを作ったことで、「自分の選んだ物を伝えたい」という意欲を高め、本時を迎えた。

S 1:

I have green erasers.

I have green pencils.

I have a green notebook.

緑が好きな友達なので、

緑の物で揃えました。

S 2:

I have seven erasers.

I have a pencil.

ねりけしセットです。

友達の為に作った文房具セットの紹介しよう。		に作った文房具セットの紹介しよう。		作った文房具セットの紹介しよう。	
日時	Today's goal	目標	今日のめざすこと	目標	今日のめざすこと
9/24	文房具セットの言い方をいよう。 友達に話そう。	日本語と英語でいかに伝えるか、わかりやすく伝えること。	① 日本語と英語でいかに伝えるか、わかりやすく伝えること。	① 誰に、何を、どう伝えるか、決めること。	① 誰に、何を、どう伝えるか、決めること。
9/27	お気に入りの持ち物を忘れずいよう。 友達に話そう。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。
10/10	友達のために、文房具セットを作ろう。 友達に話そう。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。
10/17	文房具セットをいよう。 相手にわかるように工夫しよう。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。	① 大切なものを、どう伝えるか、決めること。

児童は、友達の好みや用途を考えた文房具セットを作っていたため、「紹介したいこと」を明確にもっていた。そのため、「色を取り上げて言う」「個数を取り上げて言う」「たかさんの種類の名前を全て言う」など、それぞれに紹介内容を工夫して話すことができた。

(2) 主体性を育む振り返り（IV研究の実際3（3））

「文房具セットを紹介して贈る」という最終活動の前に、贈る相手とは別の友達とのペア活動、贈る相手を含まない4人グループでの活動を取り入れ、シェアリングをした。その後で、贈る相手を含めた4人グループで最終活動を行った。

<シェアリングタイム>

T: 紹介の仕方でどんな工夫をしましたか。

S 3: 数や色も入れて言いました。

S 4: 文房具セットを見せながら言いました。

S 5: 相手も見ながら言うようにしました。

T: どんなアドバイスをし合いましたか。

S 6: I have を忘れないように言いました。

S 7: 何言っているかわからないとき、指を指す方がいいとアドバイスされました。



4人グループで、「これは何と伝えようか」と相談し合ったり、聞き手に伝えるために大切な話し方の工夫をアドバイスし合ったりと、相互評価しながら活動できた。最終活動では、友達同士でサポートし合いながら、自分が伝えたいことを伝えることができた。

第5学年 外国語学習指導案

指導者 5年3組 伊東 茂

1 単元名 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域 (We Can !① Unit 6)

2 本時の指導 (1 / 8時間)

(1) 目標

世界には魅力ある国や地域がたくさんあることに気付くとともに、国名やどこに行きたいかを表す表現を知る。 【知識及び技能】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 8分	【Warm Up】 1 Greetings 2 Let's Sing 3 Small Talk ・教師の話視聴して、単元の最終活動を知る <Small Talk> What country is this? Hint 1. You can drink tea. It's very delicious. Hint 2. You can buy cookies. It's yummy! Hint 3. You can see Big Ben. It's great. I like this country. I want to go to this country. What country is this?	・明るく挨拶をする。 ・歌とダンスのめあての確認 ・単元の最終活動のデモンストラクションを行う。	○和やかな雰囲気をつくる。 ○ふれあいを意識させる。 ○教師が「おすすめの数」クイズを提示し、世界の国や地域の魅力について児童の関心を高める。 ○tea, cookies, Big Benに着目させて、内容を推測させる。 ○さらにヒントが欲しい場合は、Hint, please. と言えばいいことを伝え、後に行うクイズの学習に生かせるようにする。
	4 Goal (1) Unit's goal 自分で行きたい国や地域のみりよくを伝えよう！ ・単元全体を見通す。	・単元のめあてを確認する。 ・最終活動に向けて必要な学習を考えさせる。	
	(2) Today's goal 世界の国々のみりよくを知ろう！	・今日のめあてを確認する。	
展開 30分	【Main Activity】 5 Let's Watch & Think ・デジタル教材を視聴し、聞き取れた内容をメモに取る。 ・聞き取ったことをペアで話し合い、発表する。 6 Let's Play Pointing Game ・教師が言う場所、建造物、食べ物などを聞き、写真を指さす。 7 Let's Read & Write ・“Egypt”のスペルを唱えながらなぞる。	・児童に新教材の写真をもとにしてどんな内容を予想させる。 ・最初に全体を視聴させ、聞き取ったことを発表させる。その後、一文ずつ内容を確かめる。 ・国名、建造物、状態・気持ちを表す言葉に着目させる。 ・ゲームのリードをする。 ・I want to go to ()の表現を紹介する。 ・正解を確認する。	○視聴する前に児童に新教材の写真を見せ、知っていることをペアで共有させる。 ◇デジタル視聴で聞き取れない児童には全体場で確認することで理解させる。 ◎エジプトやアメリカの魅力について理解できる。 (行動観察 振り返りシート) ◇国名と位置をペアで確認するようにする。 ◎国名やどこに行きたいかを表す表現を知る。 (自己評価 振り返りシート) ○書く国名については、予め児童に選ばせておく。
終末 7分	【Reflection】 8 Reflection ・振り返りシートを使って自己評価する。	・分かったことやこの単元でがんばりたいことなどを発表させる。 ・活動のよかった点を伝える。	○観点に沿って振り返らせ、達成感を味わわせる。 ○この単元の自分のめあてをもたせる。
	9 Greetings		

5年3組 授業の考察

1 研究との関わり

本時は単元の導入なので、この単元で学習する世界の国々や地域の魅力について写真や映像資料を通して紹介し、児童の興味・関心を高めるようにした。また最終活動として「おすすめの国」クイズを行うことを知らせ、どんな学習をしたいかを考えさせた。終末では今後の学習でがんばりたいことを考えさせ、学習への主体性を引き出すようにした。

2 授業の実際と考察

(1) 単元目標と最終活動の提示 (VI研究の実際1)

導入の Small Talk で、教師が「おすすめの国」クイズを提示した。児童は「tea」や「cookies」「Big Ben」などのキーワードから答えを推測して考えていた。この3ヒントクイズを単元の最終活動として学年全体で行うことを伝えると児童は目を輝かせて喜んでいった。その後、単元目標を提示するとともに、この単元で「知りたいこと」「伝えたいこと」などを児童に考えさせた。

T：この単元でどんなことを知りたいですか。

S 1：世界の国の言い方を知りたいです。

S 2：世界遺産を知りたいです。

S 3：世界の有名な料理を知りたいです。

T：どんなことを伝えたいですか。

S 1：その国の魅力を伝えたいです。

S 2：行きたい国の名所を伝えたいです。



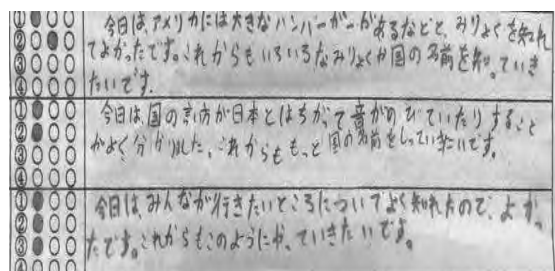
Small Talk で「おすすめの国」クイズを提示したことにより、世界の国々の魅力を伝え合うことについて児童の興味・関心を高めるとともに、最終活動のイメージをもたせることができたと考える。また単元で「知りたいこと」や「伝えたいこと」を考えさせたことで、学習への主体性を引き出すことにつながったと思われる。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

終末の Reflection で、①進んで学習した②聞くことや話すことをがんばった、について自己評価を取り入れた。ほとんどの児童が「よくできた」と振り返っていた。また今日の学習で分かったことやこの単元を通してがんばりたいことを振り返りシートに書かせた後に発表させた。児童からは「世界の国々の言い方が分かってきた」「見たいものや食べたいものを伝える表現が言えるようになりたい」など、次の時間につながる前向きな感想が出された。

<振り返りシート>

自己評価を取り入れたことで、自分の成長を確かめ、達成感を味わわせることができた。また今後がんばりたいことなどを考えさせたことで、目標が明確になるとともに、学習への主体性が高まったものとする。



第5学年 外国語学習指導案

指導者 5年2組 田口 佳奈

1 単元名 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域 (We can!① Unit 6)

2 本時の指導 (4/8時間)

(1) 目標

行きたい国や場所, 見たいものを尋ねたり答えたりすることができる。 【知識及び技能】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 10分	【Warm Up】 1 Greetings 2 Let's Sing 3 Review チェーンゲーム ・「I want to eat～」 (グループ) 4 Today's goal	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする。 ・歌とダンスのめあてを確認する。 ・前時で学習した「食べたいもの」の表現の仕方を想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループでの挨拶を取り入れ, 楽しい雰囲気をつくる。 ○国名の発音を想起させる。 ○既習の表現を思い出させるために, 全体で確認をする。 ○フィンガードリルを使って, I want to eat～.の表現に慣れ親しませる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 行きたい国と見たいものを紹介しよう！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい国について紹介したことの中から, 本時では見たいものを紹介することを確認する。 ・既習の see の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習とのつながりをもたせて, 本時のめあてをつかませる。 ○紹介をして, 国のよさを知ってもらうことを確認する。
展開 28分	【Main Activity】 5 Activity ・デモンストレーションを行い, 行きたい国や見たいものについて, 担任に質問する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> T: Hello. S: Hello. Where do you want to go? T: I want to go to Egypt. S: Why? T: I want to see a pyramid. </div> ・インタビュー ・シェアリングタイム 6 Let's Read & Write <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> Egypt </div> ・スペルを唱えながら, 書き写す。 ・書き終わったらペアでチェックする。	<ul style="list-style-type: none"> ・HRT と児童でモデルを示す。 ・HRT と全体, ペアで尋ね方, 答え方を繰り返させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の表現が分かりやすいよう, ジェスチャーも入れながら楽しく対話を行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・十分に親しんでいない会話表現を確認し, 慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・モデルを示し, 児童の活動のよい点を伝える。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ◇表現を忘れていた児童には, 友達や先生に教えてもらってもよいことを伝える。 ◎自分の行きたい国や場所, 見たいものについて紹介することができる。 (行動観察・相互評価) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○グループで伝え方の工夫を出し合わせ, 全体での活動に生かすようにする。
終末 7分	【Reflection】 7 Reflection ・振り返りシートに自己評価をする。 8 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の楽しさや伝え方, 見つけた国の魅力等を発表させる。 ・活動のよかった点を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点に沿って振り返らせ, 達成感を味わわせる。 ○次時の課題をもたせる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・終わりの挨拶をする。 	

5年2組 授業の考察

1 研究との関わり

本時は、自分が行きたい国を紹介し合う活動を通して、その国で見たいものについて伝えた。聞き手は、行きたい国とその国で見たいものを尋ねた。その際、相手の行きたい国やその理由（見たいもの）を繰り返して言うことで、相手の話していることを確認しながら共感的に聞くことができるようにした。シェアリングタイムでは、活動を通して児童にとって難しかった表現を取り上げ、全体で慣れ親しむ活動を取り入れた。本時は様々な国の魅力を見つけ、単元の最終ゴールの「おすすめの国」クイズで自分が紹介したい国を見つける時間とした。

2 授業の実際と考察

(1) 「ステップアップしていく活動」の工夫（VI研究の実際3（2））

Activity では、始めに教師と児童でのデモンストレーションを行った。その後で話し方を全体で確認し、ペアで行きたい国と見たいものを紹介し合った。1回目の活動が終わった後にシェアリングタイムを設けて、難しかった表現を出し合い、全体で繰り返して発音をした。また、モデルとなる2人の会話を全体の前で紹介する活動を取り入れた。

T：難しかった表現を教えてください。

S 1：Where do you want to go?が言いにくそうでした。

T：みんなで繰り返して言ってみましょう。

T：モデルをした2人の会話の良かったところはどこでしたか。

S 1：Aさんのリアクションが良かったです。

S 2：指でさして、分かりやすかったです。

S 3：エコーイングで繰り返していた所が良かったです。

T：2回目の活動では、エコーイングやリアクションに気を付けて紹介してみましょう。



シェアリングタイムの中で難しい表現を出し合い確認したことにより、うまくいかなかったことを次の活動では自信をもって行うことができるようになったと思われる。また、活動の間でモデルとなる児童の会話を紹介したことにより、会話のよい点を話し合うことができた。それによって、2回目の活動では1回目の活動でできなかった表現の仕方に挑戦することができ、ステップアップした活動が行われたと考える。

(2) 主体性を育む振り返り（VI研究の実際3（3））

振り返りでは単元の目標に沿ってポイント、観点を与えて記入させた。自分が紹介するときに気を付けたことや友達の発表の良かったところ、友達の紹介を聞いて見つけたいろいろな国の魅力について書かせた。友達の紹介を聞いて国のよさを見つけることを目標とすることで、主体的にインタビューができ、振り返りでお互いの紹介の良さを認め合えることができた。

T 今日見つけた国の魅力や紹介の仕方についての振り返りを発表してください。

S 1：Aさんとインタビューして、フィンランドでブルーベリーパイが食べられると知り、行ってみたいになりました。

S 2：2回目の活動では指をさして発表ができました。インタビューをして聞いてみると、いろいろな国に行ってみたいになりました。

S 3：グループのみんなでアドバイスをしながら上手に話せました。Bさんの紹介したフランスのエッフェル塔の高さがどのくらいなのかが気になりました。

単元の目標を国の魅力探しとして学習を進めたことで、インタビューではおすすめの国の紹介をしっかりと聞いて振り返りシートに様々な国のよさを書くことができたと思う。最終活動で行うクイズに答えるために、もっと国について知りたいという意欲をもたせることができた。また、やり取りの振り返りだけではなく、内容についての振り返りをすることによって英語で話したことが相手に伝わることの楽しさも感じられたと思われる。

第5学年 外国語学習指導案

指導者 5年1組 葛西 浩美

1 単元名 I want to go to Italy. 行ってみたい国や地域 (We Can !① Unit 6)

2 本時の指導 (7/8時間)

(1) 目標

おすすめの色について紹介することを整理し、伝え合う。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 10分	<p>【Warm Up】</p> <p>1 Greetings</p> <p>2 Let's Sing</p> <p>3 Review</p> <p>・Let's Chant [It's a nice country]</p> <p>4 Today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">「おすすめの色」クイズをしよう！</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする。 ・歌とダンスのめあてを確認する。 ・チャンツで楽しく発音し、十分に音声に慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て ○友達との挨拶を取り入れ、楽しい雰囲気をつくる。 ○はっきり発音することや友達とのふれ合いを意識させる。 ○キーワードを繰り返す。 ○単元ゴールの「おすすめの色」クイズ大会をするための活動であることを確認する。 ○本時のめあてをつかませる。
展開 28分	<p>【Main Activity】</p> <p>5 Activity</p> <p>・デモンストレーションを行い、「おすすめの色」クイズのやり方を確認する。</p> <p>・「おすすめの色」クイズを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>You can see～.It's ～.</p> <p>You can eat～.It's ～.</p> <p>You can buy～.It's ～.</p> <p>What country is this?</p> </div> <p>・シェアリングタイム</p> <p>6 Let's Read & Write</p> <p>・行きたい国ランク2位の国のスペルを唱えながら書き写す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が「おすすめの色」クイズのデモンストレーションを行う。 ・「おすすめの色」の紹介の仕方をつかませる。 ・伝える表現の確認をする。 ・伝える表現で十分に親しんでないものがあつたら、慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・よかった点や難しかった点について話し合わせる。 ・行きたい国ランク2位の国を書き写すようにさせる。 ・「形」「位置」「まとまり」に気をつけて書くことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が「おすすめの色」クイズを提示し、交流のイメージをもたせる。 ○写真や絵を使いながら楽しく交流できるようにさせる。 ○紹介する順番も考えさせ、友達同士で楽しめる「おすすめの色」クイズにする。 <li style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇表現を忘れていた児童にはワークシートや黒板掲示を参照させる。 ◎紹介の順番を考えながら「おすすめの色」クイズを行っている。(行動観察・相互評価・自己評価) ○よかった点を共有させて次時の活動につなげる。 ○3つのポイントについて気を付けて書いているかどうか机間巡視しながら確認する。
終末 7分	<p>【Reflection】</p> <p>7 Reflection</p> <p>・振り返りシートを使って、自己評価する。</p> <p>8 Greetings</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のよかった点を伝える。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点に沿って振り返らせ、達成感を味わわせる。 ○次時の「おすすめの色」クイズ大会への意欲をもたせる。

5年1組 授業の考察

1 研究との関わり

本時のゴールは、自分が考えた「おすすめの国」クイズを友だち同士で出し合う活動を通して、本単元のゴール「おすすめの国」クイズ発表会に結び付けることである。相手に「おすすめの国」の名所や食べ物・買い物を伝え、聞き手は相手がすすめる理由を聞き取りながら、既習事項を生かし「おすすめの国」を推測する。その際、相手が薦める理由を確認しながら共感的に受け止めて話を聞くことで、単なるクイズで終わらせるのではなく、会話を通して世界の国々の新たな気付きや友だちのことを知る楽しさを味わわせ、コミュニケーションへの主体性を育むようにした。

2 授業の実際と考察

(1) 「ステップアップしていく活動」の工夫 (VI研究の実際3 (2))

児童は「慣れる段階」の3時間で「I want to go to～」の表現に慣れ親しみ、苦手意識なく会話を楽しめるようになっていた。しかし「伝える」の段階で、「おすすめの国」クイズで相手にすすめる表現「You can see / eat / buy～」を入れる際に、一人称と二人称の違いに戸惑う児童が増えた。そこで本時では、Let's Chant [It's a nice country]の映像を見ながらゆっくりと、相手に進める表現を繰り返してクイズのイメージにつなげるようにした。その上Small Talkで、教師が「おすすめの国」クイズを児童とデモンストレーションを行った。

Small Talk で児童と「おすすめの国」クイズを行ったことで、クイズの双方向のイメージをつかむことができた。さらにクイズを面白くするためにヒントの順番も変えてよいということに気付き、クイズを楽しもうとする意欲が見られた。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

展開の中でシェアリングタイムをいれ、「友だちの良さ」や「次はこうしたい」という前向きな気持ちをもたせ、次の活動につなげようとした。

～1回目のペアの交流の後～

T: クイズを出し合ってみて難しかったところ、良かったところを友だちと話し合ってください。

S1: 順番も変えたので次につなげていきたい。

S2: わかりやすくアドバイスもできた。

S3: 相手のことを見られなかったのが反省点です。

S4: エコーイングをいろいろできた。

S5: 順番を変えて面白かった。表現を変えて言えないので、言えるようになりたい。

S6: スムーズに言えないところが反省点。

～2回目のペアの交流の後・本時の振り返り (Reflection) ～

T: 今日の学習の振り返り。クイズを出し合っていて工夫しているなど思ったところ、楽しかったところを発表してください。

S1: エコーイングができた。アイコンタクトもがんばりたい。Yくんが明るい声でよかった。

S2: カードを隠してみたら難しかったようなので大会でも使いたい。

S3: みんなの国が意外だった。Mさんが目と目を合わせて、クリアボイスでよかった。

S4: 2, 3回目からスムーズにできた。Rさんが絵を隠して工夫しているなど思った。

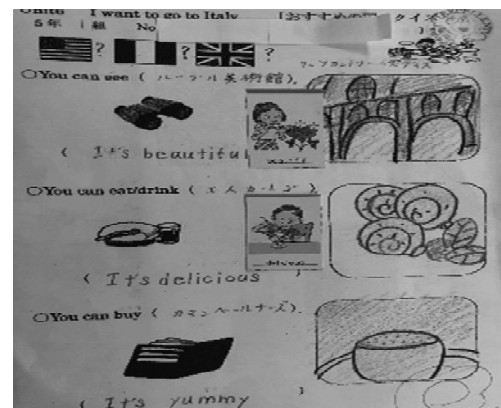
S5: 順番を変えたり、隠したり、ヒントを一つずつ出すというやり方がよかった。

S6: 隠しながら出すヒントなど工夫できた。



展開の中でシェアリングタイムを入れたことで、教師が児童に気付かせたかった「相手を気遣いながら行う交流」を自ら気付き、次の活動につなげることができた。2回目の交流では1回目の交流を生かして生き生きと会話を楽しむ児童の姿が見られた。

終末の振り返りでは、技術的な面の振り返りが多かったため、今後は会話そのものの価値付けや、外国語ならではの世界の国々の魅力に関する感想も言えるようにさせたい。



第6学年 外国語学習指導案

指導者 6年2組 佐藤 大樹

1 単元名 My Summer Vacation (We Can!② Unit5)

2 本時の指導 (3 / 8 時間)

(1) 目標

夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。

【知識及び技能】

(2) 展開

時程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導入 8分	【Warm-up】 1 Greetings 2 Review ・チェンゲーム 3 Small Talk <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 〈Small Talk〉 T: I went to Yagiyama Benyland. It was exciting. </div> 4 Today's goal <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 夏休みに行った場所とその感想を伝え合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする。 ・前時で学習した、 ① went ② How about you?を用いてグループでチェンゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と明るい挨拶を行い、明るい雰囲気をつくる。 ○前時で学習した表現の確認をする。 ○本時で学習する感想の表現に気付かせ、発表させる。 ○夏休みに行った場所と感想を付け加えて交流することを確認する。
展開 30分	【Main Activity】 5 Let's Listen ・デジタル教材を聞き、聞き取れた内容をもとに線を引く。 6 Let's play ・フェイントゲーム 7 Activity ・絵日記(行った場所)と絵カード(形容詞)を置く。 ・夏休みに行った場所や感想を伝え合う。(ペア) ・シェアリングタイム	<ul style="list-style-type: none"> ・新教材のイラストからどんな内容かを推測させる。 ・デジタル教材の内容を全体で確認をする。 ・指した絵カードを児童と一緒に発音する。 ・教師が間違ったモデルを提示する。 ・会話表現の確認をする。 ・会話表現で十分慣れ親しんでないものがあつたら、慣れ親しむ活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル教材で聞き取れない児童には全体場で確認することで理解させていく。 ○リズムに合わせて、形容詞を声に出し、慣れ親しませていく。 ○絵日記(行った場所)に合う絵カードがあることを確認する。 ◇表現を忘れた児童には、友達や教師から教えてもらうよう助言する。 ◎過去形の表現の仕方が分かり、夏休みに行った場所とその感想を伝え合う。 (行動観察・相互評価・自己評価) ○エコーイングを取り入れて2回目のやり取りを行う。 ○シェアリングタイムで出てきた友達を紹介する。
終末 7分	【Reflection】 8 Reflection ・振り返りシートに記入する。 9 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ・It was はなぞり書きをし、形容詞は絵カードを見ながら書き写させる。 ・「わかったこと」「友達のよさ」「次に頑張りたいこと」など振り返りの観点に沿って記述させる。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「形」「位置」「まとめ」に気を付けて書くように助言をする。 ○観点に沿って振り返らせ、達成感を味わわせる。 ○次時に向けての課題をもたせる。

6年2組 授業の考察

1 研究との関わり

本単元の最終ゴールは、夏休みの思い出について感想を交えて交流することである。この単元では、過去形や感想表現が出てくるため、絵カードやゲームを通じて十分に慣れ親しませた。また1回目の活動後、シェアリングタイムを設け、難しかった英語表現について確かめたり、児童が聞きたいことを尋ねたりするなど、児童の思いを尊重し、主体的に活動できるように進めてきた。

2 授業の実際と考察

(1) 主体性を育む振り返り (IV研究の実際3 (3))

Activity 終了後、グループでシェアリングタイムを設け、「できたこと」「つまづいた点」「次の活動でやってみたいこと」を全体で共有した。

- T: つまづいた点はどんなことですか。
 S1: 尋ねる表現を確認したいです。
 S2: 質問の表現を忘れてしまいます。
 T: やりとりしていて他にどんなことを聞きたいですか。
 S1: 聞き返しを入れてやりとりしたいです。
 S2: もう少し場所とか詳しく聞きたいです。

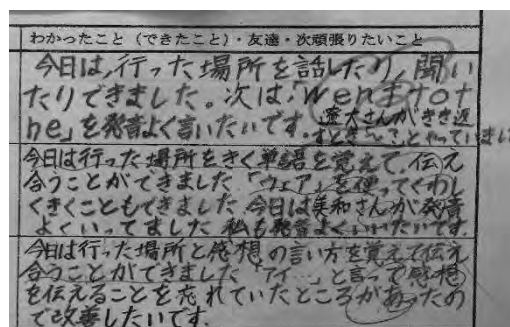


Activity の後にシェアリングタイムを設けたことで、定着していない表現を全体で共有し、確認したことで安心して次の活動へつなげることができた。また、児童から「場所を聞きたい」「エコイングをしたい」など子どもたちが聞きたいことを2回目の活動に取り入れたことで主体的にやりとりする姿につながったと思われる。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

終末のリフレクションでは、①わかったこと
 ②友だちのよさ③次頑張りたいことについて観点を
 与え、振り返りシートに記入させた。

また、振り返りの中に **Writing** を取り入れた。
 児童が書きたい単語を取り上げ、絵カードやワードリストを見ながら「形」「位置」「まとまり」に気を付けて書かせた。



振り返りの観点を与えたことで、本時の学習を振り返ることができ、友だちのよさにも気付くことができた。また、「次頑張りたいこと」を記入させたことで、次時への課題へとつながり、児童が主体的に取り組む姿につながるとと思われる。

Writing の活動では、児童の思いを尊重した単語を書かせた。児童が書きたいと思う単語を選択させて書かせたことで、外国語を書くことへの抵抗感が減り、意欲的に書く姿につながったと思われる。

第 6 学年 外国語学習指導案

指導者 6年1組 吉田 貴子

1 単元名 My Summer Vacation 夏休みの思い出 (We Can!② Unit 5)

2 本時の指導 (7 / 8 時間)

(1) 目標

夏休みに行った場所や食べた物, 楽しんだことを伝え合う。

【思考力, 判断力, 表現力等】

(2) 展開

時 程	学習活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ◎評価 ◇配慮を要する児童への手立て
導 入 8 分	<p>【Warm-up】</p> <p>1 Greetings</p> <p>2 Small Talk</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈Small Talk〉</p> <p>T : How was your summer vacation? S1 : I went to the sea. It was fun. T : How was your summer vacation? S2 : I ate <i>Yakisoba</i>. It was delicious. T : How was your summer vacation? S3 : I enjoyed fishing. It was exciting.</p> </div> <p>3 Today's goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;"> 夏休みの思い出を伝え合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○元気に明るくあいさつさせ, 和やかな雰囲気をつくる。 ○児童が夏休みに作成した絵日記から「行った場所」「食べた物」「楽しかったこと」「感想」の表現を確認し, 既習学習の振り返りをする。 ○本単元でのゴールである夏休みの思い出について伝え合うことを確認する。
展 開 30 分	<p>【Main Activity】</p> <p>4 Activity</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストラーションをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>S : How was your summer vacation? T : I went to the <i>Akyu spa</i>. I ate <i>gyutan</i>. I enjoyed fishing. It was exciting.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「場所」「食べ物」「楽しんだこと」「感想」を伝え合う。 ・シェアリングタイム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Small Talk で復習したことをまとめて話すことを確認する。 ・表現に十分に親しんでないものがあつたら, 慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・伝え合う活動を通してできるようになったことや友達のよかった点, 感想等を共有させる。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ◇表現を忘れていた児童には, 友達や教師に教えてもらうように助言する。 ◎夏休みの思い出の発表の仕方について話し合っている。 (行動観察・相互評価・自己評価) </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアAが伝え合っている時は, ペアBにその様子を観察させ, シェアリングタイムにつなげる。 ○よかった点や課題点を確認したり, 手本としたい児童を紹介したりしながら, 次の活動に生かす。 ○全体の場で共有し, 次時の学年交流会につなげる。
終 末 7 分	<p>【Reflection】</p> <p>5 Reflection</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを使って, 自己評価する。 <p>6 Greetings</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・語順に気を付けて絵カードを並べ, 写し書きさせる。 ・活動のよかった点を伝える。 ・終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワードリストや新教材の例文を参考にすることを伝える。 ○観点に沿って振り返らせ, 達成感を味わわせる。 ○次時に向けての課題をもたせる。

6年1組の 授業の考察

1 研究との関わり

本時は単元の最終活動「夏休みの思い出を伝えよう」の前時となる。交流会の準備として、友達の夏休みの思い出を聞いたり、聞き手を意識しながら夏休みの思い出を話したりする活動を行う。友達の発表のよさを感じさせ、相手意識をもって話すためにシェアリングタイムを設け、自他のよさや違いに気付き、互いに認め合うことのできる場にし、次時の学年交流につなげた。

2 授業の実際と考察

(1) 必然性のある場の設定の工夫 (VI研究の実際3 (1))

単元ゴールである「学年交流会」を意識し、夏休みの思い出である「行った場所」「食べた物」「楽しんだこと」を話し、聞き手は感想や誰と行ったのかなど「もっと知りたいこと」を交流した。

S1: How was your summer vacation?

S2: I went to the sea. I enjoyed swimming.

I ate watermelon.

S1: Where? With who?

S2: *Jodogahama.* My family.

S1: Great summer vacation.



「行った場所」「食べたもの」などを聞いた時、Where?, With who? などを使って反応することを確認し、絵カードの操作活動を通して、伝え合うポイントやタイミングをみんなで考えることができた。上記のように一方向ではなく、双方向で情報を伝え合う活動をする児童もいた。やり取りの中で反応するためには、「聞く」「話す」必然性がある活動であったと思われる。

(2) 主体性を育む振り返り (VI研究の実際3 (3))

Activity 後のシェアリングタイムでは、よかった点や課題点を確認した。シェアリングタイムの中では、聞き取りやすい声、速さなどに気を付けるなど、聞き手を意識した発言があった。また、Me, too. やうなずくなどの反応を返すことの大切さについても意見があった。

【1回目】

T: 困ったことはありませんでしたか。

S: 伝え合うときの With who? とかをどのタイミングで入れればよいか難しかったです。

【2回目】

T: やり取りしてみて、良かった友達を紹介して下さい。

S1: How was your summer vacation?

S2: I went to the mountain. I ate ice cream. Do you like ice cream?

S1: Yes, I do. With who? S2: My family. I enjoyed hiking.

S1: Where? S2: Mount *Himekami.*

S1: Great summer vacation.

T: どんなところが良かったですか。

S1: 大切な部分をゆっくり言ってくれた。

S2: 食べたものの紹介の時に Do you like~? と習った表現を使って聞いていたところが良かったと思います。



Activity 後にシェアリングタイムを入れることで課題点が明確になり、次の活動に生かすことができた。また、友だちの発表を聞き合い、相手に効果的に伝えるためには、どんな工夫が有効かを共有することができた。子どもたちの声から、次の活動に進んでいくので、児童一人一人が主体的に活動することができたと考える。

VIII 研究のまとめ

1 成果

(1) 目標を明確にした単元指導計画の作成

単元の導入時に最終活動を教師が提示することで、児童に「面白そう」「やってみたい」など、興味・関心をもたせることができた。また、単元目標を示したことで、児童に明確な目標をもたせることができた。単元を通して、「何のために」「何を学習するか」を考えさせたことにより、単元全体の見通しをもたせるとともに、主体性を高めることにつながったものとする。

単元全体を「出会う」「慣れる」「伝える」の3段階に分け、連続性・発展性を考慮して単元指導計画を作成したことにより、教師自身が目的意識を高め、系統性を意識して学習を進めることができた。また外国語では、CAN-DO リストを付記したことにより、身に付けさせたい力を明確にして授業を構想することができた。

(2) 一単位時間の指導過程の作成

一単位時間の指導過程を「導入」「展開」「終末」の3段階に分け、基本活動と選択活動を明らかにしたことにより、足並みをそろえて授業を行えるようになった。また学習課題の解決に向けて、連続性・発展性のある授業を構築しやすくなったものとする。そして、外国語活動と外国語の授業の共通点や相違点を確認したことで、特長を意識した授業を行えるようになったと思われる。

(3) 主体的にコミュニケーションを図る子どもを育成する授業づくり

ア コミュニケーション活動の場の設定

「必然性のある場の設定」を取り入れたことにより、児童が「聞く活動」「話す活動」「やり取り」に夢中になって活動を行い、新しい語句や表現へ自然に慣れ親しむようになった。また、進んで友達とのコミュニケーションを楽しむ児童が増えた。

イ 変化のある繰り返しやステップアップしていく活動の工夫

チャンツやチェンゲームなどで変化のある繰り返しを取り入れたことで、楽しみながら新しい語句や表現に親しむことができた。また、やり取りなどでは少しずつ語彙や伝え合う内容を増やすなど、難易度を上げることで児童は意欲を高めて活動を楽しむようになった。

ウ 主体性を育む振り返り

Activity の中に、シェアリングタイムを位置付けて振り返りを行ったことで児童から「〇〇の言い方を練習したい」や「次は〇〇にチャレンジしたい」など次の活動につながる主体的な態度が見られるようになった。また、よい活動をしている児童を紹介することで、友達のよさに気づき、認め、自分の活動に生かそうする姿も見られるようになった。さらに活動を通して分かった友達の意外な一面について交流したことにより、コミュニケーションの楽しさに付き、主体的に話しかけようとする児童が増えた。

振り返りシートに、単元目標を明記させることで、ゴールの見通しをもたせ、「達成しよう」という目的意識を高めることができた。また、毎時間自己評価を行うことで、児童は「できた」という達成感や自己肯定感が得られるようになったと考える。さらに「分かったこと」「がんばったこと」「友達のよさ」「次ががんばりたいこと」を感想として書かせて交流することにより、互いに認め合ったり、次の時間にがんばることが確認できたりして、主体性を育むことにつながった。

2 今後の課題

(1) 単元指導計画の見直しについて

外国語活動の教材は、今年度同様「Let's

Try」であるが、外国語は教材が変わることが決まっているので、新教材に基づいた単元指導計画を作成しなければならない。また、外国語活動も外国語も、児童の学習履歴や実態に応じた言語材料の精選と単元指導計画の見直しを毎年行う必要がある。

(2) 必然性のある場や活動のバリエーションを増やすことと蓄積について

これまでの授業実践を通して、必然性のあるコミュニケーションの場を工夫することが児童のコミュニケーションへの主体性を高める上で効果的なことは既に確認できている。ただし、本校では実践の積み重ねが浅いため、必然性のある場のバリエーションが十分とは言い難い。そこで、「聞く」「話す」「やり取り」のそれぞれにおいて、児童の主体性を引き出す上で有効だった「場」の設定を蓄積していく必要がある。同様に、変化のある繰り返しやステップアップしていく活動についても記録して蓄積し、次年度に引き継いでいくことが大切である。また、開発した教材の保管も必要である。

(3) 次の活動に生かす振り返りについて

今年度は Activity の中でシェアリングタイムを取り入れ、活動を振り返り、次の活動に生かすようにした。また、分かったことや気付いたこと、友達の活動のよさなどについても共有した。シェアリングタイムの活用の仕方については、まだまだ可能性があるため、今後その用途を模索する必要がある。また、児童の主体性を引き出す発問の仕方についても検討していくべきと考える。

振り返りシートについてさらに改良を行い、単元全体を通して児童が成長を通じ、次への課題に向かう動機付けとなよう、効果的に使用していく。

(4) 評価について

これまでの本校の研究では、評価は自己

評価、相互評価、そして教師による評価の3つを組み合わせで行ってきた。本校の評価に対する基本的な考え方は、「児童に自己肯定感をもたせ、主体性を育むこと」である。今後文科省から評価に対する具体的な方針が示された際も、この基本的な考え方に基づいた評価の在り方を模索していくことが大切と考える。

3 おわりに

3年間の指定研究は今年度で最後となる。単元指導計画、一単位時間の指導過程、そして主体的にコミュニケーションを図る子どもを育成する授業の研究については、一定の成果を上げることができたように思われるが、まだまだ改善の余地はある。評価については、これから研究を進めていかなければならない。本校では、「子どもの主体性を育むこと」を念頭におき、今後もさらに研究を続けていきたい。今回の指導要領の改訂では、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」が求められている。

本研究の成果が、その改訂のポイントに基づく各校の授業改善の役に立てられれば幸いである。

IX 引用・参考文献

- ・小学校指導要領解説外国語活動・外国語編（平成29年 文部科学省）
- ・平成28年度研究紀要（平成28年盛岡市教育研究所）
- ・平成29年度研究紀要（平成29年盛岡市教育研究所）
- ・平成30年度研究紀要（平成30年盛岡市教育研究所）
- ・平成31年度学校教育指導指針（岩手県教育委員会事務局学校教育室）
- ・平成29年度小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）